

プログラム

フランス組曲 第5番

J.S. バッハ

—2台のマリンバのために—

織田英子 編曲

RAIN BOX

織田英子

—2台のマリンバのために—

マリンバ小協奏曲

P. クレストン

Vigorous (荒々しく)

Calm (穏やかに)

Lively (活き活きとはずんで)

＜ 休 憩 ＞

楽しい小品集

平岡養一 編曲

道化師のギャロップ・夢みる人・ゴセックのガボット・トセリ
のセレナータ・カルメン・ドナウ河のさざなみ・はるかなるサ
ンタルチア・おもちゃの兵隊のマーチ

ハンガリア狂詩曲

D. ポッパー

1989年6月30日(金) 7:00PM ノバホール

マリンバ：明瀬 由武 山口 多嘉子

ピアノ：戸部 典子 作曲：織田 英子

♮ごあいさつ

明瀬 由武

本日はお忙しいところをお越しくださしまして、誠にありがとうございます。
私がこどもの頃から奏いてきたマリンバを皆様に聴いていただけてま
すことを、とても幸せに感じております。

多くの方々に好きになっていただきたく、比較的親しみやすいマリンバ
のための現代作品、私が尊敬している木琴の平岡養一氏が好んで演奏した
曲、また作曲家織田英子さんが今回のために書きあげて下さった2台のマ
リンバのための作品等を用意しております。どうぞ最後までごゆっくりお
楽しみください。

この場を借りまして、ご出演くださいました演奏者の方々、カットの古
山浩一さん、そして会を催すためにご協力くださったたくさんの方々に心
よりお礼申し上げます。

曲目解説

作曲家：織田 英子

第1部

♪ フランス組曲第5番 --2台のマリンバのために--

J.S. バッハ

邦人作品とひとくちに言っても、作曲された年代から作風まで、多種多様です。特にこの20年間はジャンルの境い目が混沌としながら発達してきているのですが、黛さんの音楽は中でもいつも新鮮で、若い頃に書かれた作品でも、聴くたびに新しい発見と感動を見出すことができます。そしてそれは、日本人が西洋音楽をやることについてのギャップやハンディ、それらをどう好転させていくかという宿命の大問題に、ひとすじの光を与えているようです。

この木琴小協奏曲にはちょっと面白いエピソードがあります。作曲を依頼した平岡養一氏が、出来上がってきたこの曲を見て、「好みに合わない」と演奏するのをやめたそうです。ですから、初演はそれからすいぶん後に別の奏者によって行われたということです。

♪ RAIN BOX --2台のマリンバのために--

織田 英子

RAIN BOX（レインボックス）とは雨の擬音装置のことを意味する劇場用語です。6月に演奏されるということを頭に置いて書きました。実際に曲を書いていたのは3月から4月にかけてでしたが、次に来る季節のことを考えるという作業は結構楽しいものでした。「梅雨の長雨」と言った暗いイメージよりも、もっとロマンティックな美しい雨のことばかり浮かんでくるのはなぜでしょうか。

しかし、これは雨を描いた描写音楽ではありません。現代音楽というと概して難解な、生理的に不快を感じるものが多いのですが、私はその理論に馴染めません。聴衆との間に断絶を作ってしまう音楽ではなく、反対に愛を通わせることのできるような音楽でありたいと願っています。

♪ マリンバ小協奏曲

P.クレストン

クレストンは1906年ニューヨーク生まれの人ですが、和声法、作曲は独学。音楽療法、美学、音響学などの研究者でもある、変わった経歴の持ち主であります。

この曲はマリンバの難曲の一つとされていますが、色彩感あふれる和声の豊かな響きと、ジャズ的なリズムに魅力を感じる方は多いでしょう。特に、2楽章全体を流れる4本の撥で奏する和音の美しさは絶品です。

第2部

♪ 楽しい小品集

編曲 平岡 養一

明瀬さんに「目標とするマリンバ奏者は？」とたずねると第一番に「木琴の平岡養一先生！」と言われます。本当に何気ないメロディーでも、平岡先生の手にかかる、立体的なふくらみをもって生き生きと呼吸を始める——そんなあたたく優しい音楽の本当の姿がそこにあるからでしょう。この小品たちは平岡養一氏が自ら編曲された珠玉の名曲ばかりです。

♪ ハンガリア狂詩曲

D. ポッパー

この曲は、平岡養一氏、明瀬さんの師である斎藤鍵、高橋美智子の両氏のおはこで、明瀬さんもそのことを強く意識してやっておられるそうです。

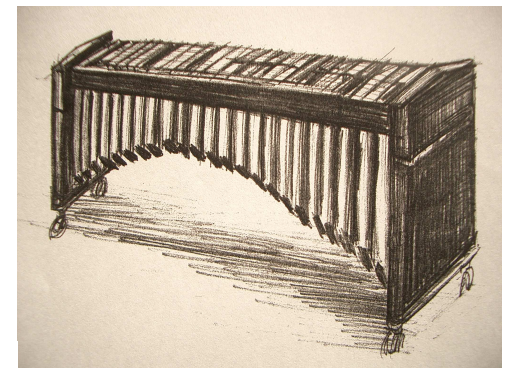
ハンガリーのマジャール民族と日本人は同じ人種で、そのせいか、ハンガリー民謡を題材にした音楽はあまり違和感がなく、誰にでも親しまれるようです。特に曲の終盤、だんだんテンポが速くなり盛り上がってくるところなど、心をとらえて離さないものがあります。

本日使用の2台のマリンバ

明瀬 由武

私の愛用のマリンバは、岐阜の多治見で半世紀近くマリンバ作りに打ち込んでこられた水野三郎氏が1986年に制作したものです。すべてが手作りで、音域は5オクターブ半、長さは2m60cmあります。

また、小さなほうは、米国マッサー社（Musser）のものですが、今回、2台一緒に演奏するために音色・音質をそろえる必要があり、水野氏に特にお願いして作っていただいた音板（鍵盤）を載せて使用しています。



※イラストのマリンバは Musser 250